

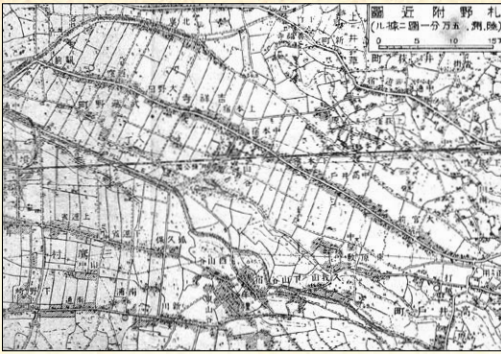
武蔵野

ヒストリー

武蔵野にまつわる歴史を
楽しみながら学ぶ

ルーツの地を探る 吉祥寺と西久保

武蔵野市の基となった
江戸期の4つの村のうち、
吉祥寺村と西窪(西久保)村は
江戸の町に深いゆかりがあります。



「札野付近図」。札野とは、幕府御用の萱を刈る場であり、牟礼野(むれの)ともいわれた(『武蔵野歴史地理 第三冊』より)。

江戸の町にルーツがある
吉祥寺と西久保

江戸時代に入った頃の武蔵野エリアは、將軍や大名がタカ力狩りをする鷹場や、幕府御用の萱刈場である札野に指定されていました。

その後開発された吉祥寺・西窪・関前・境の4つの村が、現在の武蔵野市の基となっていますが、そのうち吉祥寺と西窪は江戸の町にルーツがあり、23区内や武蔵野市内にもその名残が残されています。この2つの村の歴史をひも解いてみましょう。

吉祥寺

「明暦の大火」により
江戸の町から移住

武蔵野市にある吉祥寺のまちなみは、吉祥寺という寺院に由来しています。この吉祥寺とは江戸時代の大寺であり、江戸城築城の際、井戸を掘った場所から「吉祥増上」の刻印が出てきたため、城内(現在の千代田区の和田倉門周辺)に「吉祥庵」を建てたのが始まりです。その後、吉祥寺として本郷元町(現在の文京区)に移りました。現在の水道橋の北



明暦の大火の様子を描いた「江戸火事図巻」。明暦3年、本郷丸山から出火したといわれる火事は江戸の町を焼き尽くす大火となった(江戸東京博物館蔵)。

側、JR中央線の車窓からも眺めることができる都立工芸高校付近にあります。当時の吉祥寺付近は門前町としてにぎわいました。

明暦3(1657)年に「振袖火事」として知られる明暦の大火が発生。本郷丸山の本妙寺から出たといわれる火は、江戸城本丸と、江戸市街の大半を焼失させました。さらに翌年、吉祥寺大火と呼ばれる火事が、前年の火事で焼け残った神田一帯を焼き払い、吉祥寺も焼失しました。度重なる大火への対策として、幕府は江戸城周辺に火除地(延焼防止用の空地)を設け、市街地を再編成し



東京大空襲被害を免れた山門と経蔵が当時をしのばせる現在の吉祥寺(文京区本駒込3-19-17)。



かつての吉祥寺があったエリアには、現在、都立工芸高校やビルが建ち並ぶ(文京区本郷)。

ました。このとき武家屋敷地を優先的に設定したため、市街地に住んでいた農民や町人の中には退去を迫られる者が出ました。吉祥寺門前で暮らしていた人たちも移住を余儀なくされ、幕府は彼らに代替地として札野の土地を与えたのです。

新天地に移り住んだ町人たちには5年間扶持米(食糧)が与えられ、さらに造宅費は貸与するという補償が付けられました。その生活は過酷なものだったといわれています。住民らは移住前の地名をとってその地に吉祥寺新田と名付け、寛文4(1664)年の検地で独立村となり



歌川廣重による浮世絵「江戸名所百景 愛宕下 藪小路」(『芝区誌』より)。



江戸期の西久保城山町付近の地図。『増補 港区近代沿革図集』(出典は『御府内往還其外沿革図書』)より。



東京メトロ日比谷線神谷町駅周辺が、かつての西久保城山町にあたる。城山トラストタワーがそびえ立つ(港区虎ノ門四丁目)。

4カ村(吉祥寺、西窪、関前、境)の略歴

慶安 3 (1650) 年	江戸西久保城山町消失。
明暦 4 (1658) 年	江戸大火による吉祥寺(水道橋)類焼。
万治 2 (1659) 年	吉祥寺門前町の住民が武蔵野に移住。
寛文 2 (1662) 年	西久保城山町の住民が武蔵野に移住。
寛文 4 (1664) 年	吉祥寺村、西窪村検地される。
寛文12 (1672) 年	関前村検地される。
延宝 6 (1678) 年	境村検地される。
享保10 (1725) 年	武蔵野新田開かれる。
明治元 (1868) 年	吉祥寺、西窪、関前、境の4カ村が武蔵知県事の支配となる。
明治 2 (1869) 年	4カ村が品川県の管下に入る。
明治 4 (1871) 年	吉祥寺村と西窪村は東京府に、関前村と境村は入間県に編入。
明治 5 (1872) 年	4カ村が神奈川県に編入。
明治22 (1889) 年	4カ村と井口新田飛地が1村となり、武蔵野村となる。
明治26 (1893) 年	武蔵野村が東京府の管下に入る。

この吉祥寺では多くの学僧が学び、権威ある大寺として知られていました。が、東京大空襲でまたもやそのほとんどが焼失。その後本堂などは再建されましたが、焼失を免れた山門と経蔵は遺されており、当時の面影をしのぶことができます。移転した後も吉祥寺門前の名で呼ばれ、駒込吉祥寺町と称されていました。

西窪のルートであった西久保城山町(西之久保町ともいう)は、現在の港区虎ノ門に位置していました。愛宕山の西側にあった低地であることから、そのように称されたといわれ

『増補 港区近代沿革図集』によると、西久保城山町の地名は明暦の大火により消滅後、明治5(1872)年に復活し、昭和22(1947)年の港区の成立に伴い芝西久保城山町に

なりました。一方、大火によって焼失した吉祥寺は、現在の文京区本駒込の地に移転。「西は日光御成街道をへだてて駒込片町、南は百姓地、北は駒込富士前町に接していた」といわれています(『江戸東京地名事典』より)。当時は27の学寮(僧侶の教育機関)が設けられていました。関東における曹洞宗唯一の施檀林(学寮)を有しており、この施檀林が、駒澤大学の前身の一つとなりました。

武蔵野市の西久保は、かつては西窪とも称されていました。江戸の西久保城山町からの移住により寛文2(1662)年に開村、同4(1664)年検地をされました。この移住も吉祥寺と同様、江戸の火災と、防火対策に伴う都市改造が理由でした。

民らに対し、幕府は武蔵野の原野を与え、開発資金を貸与。移住者は江戸の町の名をとり、西窪新田と名付けました。跡地が武家屋敷となつたため替地を訴えた農民によって住居を失います。跡地が武家屋敷となつたため替地を訴えた農民らに對し、幕府は武蔵野の原野を

残をとどめています。南北道が城山通りと呼ばれ、その名

が、昭和22年に文京区が成立し、周囲の地域と合併して本駒込と地名を変えました。

ています。武家屋敷や寺社が並ぶ地域で、「江戸名所百景 愛宕下・藪小路」の浮世絵(左上図)からは、幕末の近辺の様子を伺い知ることができ

ます。慶安3(1650)年の大火によって西久保城山町は焼失してしまいました。焼失後の区画整理により家を失った農民は簡素な住まいで暮らして

改称。昭和52(1977)年に住居表示の実施により現在の虎ノ門四丁目となりました。『御府内往還其外沿革図書』から編成された地図(左中図)では、西久保城山町や西久保通の名を見ることが出来ます。

西久保(西窪)

現在の虎ノ門にあった西久保城山町から武蔵野へ